人生の最期、どこで旅立ちたいですか？

大切な人の最期、どのように送りたいですか？

誰にでも訪れる人生最期を支えるセカンドライフ

交通事故で娘を亡くした定年間際のビジネスマン柴久生（榎木孝明）。自殺を図ろうとした彼の耳に聞こえた「生きろ」の声。それは友人・川島の最期の声だと、彼の“看取り士”だったという女性から聞かされる。“看取り士”とは、最期に残された時間、旅立つ人、送る人に寄り添い、支える人のことだった。5年後、柴は岡山県高梁市でセカンドライフを“看取り士”として、9才の時に母を亡くした23才の新人 高村みのり（村上穂乃佳）たちと最期の時を迎える人々を温かく支えているのだった。

自分らしく旅立つ・・・

高齢化社会となり、また、人間関係が希薄な今だからこそ考えなければならない、如何に死の瞬間を迎えるのか？

一般社団法人「日本看取り士会」の代表理事を務める柴田久美子さん、多くの方を看取り、温かい時間を共に過ごしてきた彼女の経験が本作の原案である。主人公、柴久生の生き方を通して「如何に生き、死を迎えるか」の意味を伝える。そんな死生観をテーマにした企画に賛同した榎木孝明が自ら出演を決め、新人看取り士、高村みのり役を1,200人のオーディションから選ばれた新進女優、村上穂乃佳が演じる。斉藤暁、つみきみほ、仁科貴、石濱朗、大方斐紗子、高崎翔太、宇梶剛士、櫻井淳子等が脇を固め、監督は『ママ、ごはんまだ？』(17)等を手掛ける白羽弥仁。

やさしく、豊かな時間が流れる岡山県高梁市を舞台に最期を見守る看取り士の姿から、“生きる希望”を共感できる作品が完成した。

原案・企画　柴田久美子

看取り士（みとりし）――逝く人の最期に寄り添い、見送る人。また、家族だけでの看取りをサポートする人のことをいう。本書は、25 年ものあいだ、生と死に向き合い続けた看取り士・柴田久美子のエッセー。

原案：「私は、看取り士。」柴田久美子著（佼成出版社刊）　企画：柴田久美子／榎木孝明／嶋田 豪　統括プロデューサー：嶋田 豪　プロデューサー：高瀬博行
音楽：妹尾 武　撮影：藍河兼一　照明：鈴村真琴　録音：西岡正巳　美術：阿久津桂　編集：目見田健　音響効果：丹 雄二　主題歌：「サクラの約束」（歌：宮下舞花　作詩・作曲：犬飼伸二）　音楽プロデューサー：犬飼伸二
特別協力：（一社）日本看取り士会／（一社）在宅ホスピスなごみの里　後援：（公社）日本医師会　協力：池本助夫／正好文化事業股份有限公司／泰邦株式会社／特許業務法人オンダ国際特許事務所／上村邦子／株式会社北陽／株式会社佼成出版社／高梁市観光協会
キャスティング：クリエイターズ・フィールド　製作プロダクション：アイエス・フィールド　監督・脚本：白羽弥仁
配給：アイエス・フィールド　2019年／日本／カラー／ビスタサイズ／110分／5.1ch　©2019「みとりし」製作委員会

G 全年齢

www.is-field.com/mitori-movie　@mitorimovie